

# 女性のチャレンジ 応援します ✧

チャレンジ事例集 **vol.3**



宇都宮市男女共同参画推進センター

はじめに

本市では，男女共同参画社会の実現に向けて，とりわけ女性が個性と能力を十分に発揮し，新しい発想や多様な能力を活かせるよう，さまざまな分野で女性の「チャレンジ」を応援しています。

この度，本市で活躍している女性からの元気なメッセージを『女性のチャレンジ事例集』としてお届けします。チャレンジを考えている方，あるいは現在準備中の方など，さまざまなチャレンジの参考としてご活用いただければ幸いです。

平成21年3月

## 目 次

### 《輝く女性にインタビュー》

☆ Café プチママオーナー

上原 美津子さん・・・・・・・・・・ 1

### 《女性のチャレンジ事例》

◇ 福祉用具専門相談員

富田 直子さん・・・・・・・・・・ 5

◇ 新日本婦人の会 宇都宮支部

榎岡 洋子さん・・・・・・・・・・ 6

◇ NPO法人 仕事と子育て両立支援センター理事

宮路 順子さん・・・・・・・・・・ 7

## 「Café プチママ」

忙しい子育て中のお母さんたちに、手作りランチでやすらぎのひとときを・・・  
自宅を利用した託児付ランチカフェを上げた上原さんに、その思いを聞いてみました。

オーナー 上原 美津子 さん

子育て中のお母さんたちに  
くつろげる癒しの時間を・・・  
現役の保育士から転身して、託児つき  
のランチカフェ「Café プチママ」を  
経営する上原さん。

自宅のリビング・ダイニングを利用し  
たアットホームな雰囲気の中、お母さん  
たちに癒しの空間と時間を提供してい  
ます。すべて手作りのランチには離乳食  
メニューも・・・

そして、ランチの後には、保育士の  
資格と経験を活かして子育ての  
相談や、様々な講座や教室も  
開催中。



**Q. 保育士から転身されて、託児付きカフェを始めたきっかけを聞かせてください。**

A. 私は29年間、市の保育園の保育士として働いていたのですが、辞める前の最後の4年間は「なかよしクラブ」や「にこにこひろば」で仕事をさせていただきました。そこは、悩みを持つお母さんの相談を受けたり、お子さんとお母さんに遊びの指導をすることが主な仕事だったのですが、とても楽しく、私がやりたいと思うことも十分にできる職場でした。中でも言葉の遅れを持つ子どものお母さんの悩みはとても深く真剣で、私もたくさん勉強させていただきました。

そんな時、あるお母さんから土日やお正月などの保育園がお休みの時に子どもを預ける場所がないことを、涙ながらに相談された時、私は公務員としてではなく別の立場で子育てのなやみを持つ母親たちを支援できないかと考えたんです。

今となつては、その時どうしてそんなことを考えたのかわからないのですが、今やらないとやれないと思い、誰かに背中を押されるように退職、起業を決めました。

**Q. 子育て中のお母さんたちへのさまざまな思いが、起業を決意させたのですか？**

A. 私も自分自身、子どものことでたくさん悩みました。保育士の仲間たちは「そんなに心配することはないよ」とは言ってくれたんですが、私のもっとももっと深い思いは周りの人たちには理解してもらえず、ずっと一人で抱えていました。今の若いお母さんたちが、本当に悩んでいる姿を見た時にどうにか力になってあげられたらと思ったんです。

もちろん、市の保育士としての仕事の上で支援できることはたくさんあったとは思いますが、でも、私は普通のお母さんたちと同じ立場で支援したいという思いが強くなったんです。

**Q. お店を訪れるお母さんから、子育ての相談をされることもありますか？**

A. そうですね。こちらにお越しになるお母さんたちからはいろいろな相談をされますね。リピーターのお母さんが多く、私との間に信頼関係が出来上がっている方がたくさんいらっしゃいます。突っ込んだ悩みを打ち明けられることもあります。

私は Nobody's Perfect ファシリテーター<sup>(※注)</sup>の資格を持っていますので、子育てのための連続講座を13回程実施したんですが、

何度も受講されるお母さんも多く、仲良くなったお母さんもたくさんいらっしゃいます。



キッズルーム

**※ 注) Nobody's Perfect ファシリテーター**

0歳から5歳までの子どもをもつ親を対象にし、参加者がそれぞれに抱えている悩みや関心のあることをグループで出し合って話し合いながら、自分にあった子育ての仕方を学ぶ、「Nobody's Perfect プログラム」を進めるための、カナダ保健省公認ファシリテーター認定機関「Nobody's Perfect Japan」が認定したファシリテーター

**Q. 講座やイベントも開催しているということですが・・・？**

A. 先ほどお話したファシリテーションの講座をはじめ、ベビーサイン講座、本格的生け花やネイルアート、オペラ・バイオリン等の楽器、スピリチュアルカウンセリングなど様々な講座や教室を行っています。ここ(リビング)でプチコンサートをすることだってあるんですよ。

お母さんたちに私が「こんなことやったらどう？」と投げかけるといろいろな希望が出てきてどんどん広がって、今では10以上の教室があると思います。

ランチだけでなくいろいろな形で、プチママが子育て中のお母さんの癒しの場になってくれたらうれしいですね。

**Q. 次は、プチママのランチについて聞かせてください。料理を作る上で気を付けていることはありますか？**

A. お出しするお料理は100%手作りです。そして、食材等はスーパーで調達したりもしますが、できるだけ無農薬や無添加のものを選んでいきます。最初は、保育園時代の先輩で料理のとても上手な調理士の方に教えていただきました。

子ども向けの離乳食ランチやお子様ランチも提供しているんですが、そちらもすべて手作りのものをお出ししています。

**Q. プチママは、宇都宮市ではまだほとんどない託児つきのカフェですが、お店を運営していて一番うれしかったことはどんなことですか？**

A. 「座って食事ができたのは、この子が生まれて初めてです。」って言われたことですね。

落ち着いて食事をするのができない毎日だったお母さんから、「ありがとうございます」



まるで自宅のリビングにいるようなランチスペース

と感謝の気持ちを言葉で表していただいた時には、本当にプチママを始めてよかったと思いました。

普通のお店だと子どもが泣いたりしてうるさくすると、周りに気を使ってしまいましたが、ここはそういった心配のない、子どもが泣いても騒いでもOKなお店ですから、お母さんたちには何も気にすることなく、食事できる時間を提供してあげられると思います。

**Q. 家族はこの仕事や上原さんの思いを応援してくれますか？**

A. それはもう、夫の理解があったからこそ出来たことですね。

最初に、退職して起業を考えたときに、夫に思いを話したんですが、「今まで一生懸命やってきたんだから自分の思う通りにやっていいよ」という答えを聞いて決断することができ

ました。

そして、今でも夫が応援してくれるから、プチママンをやっていくことができます。子どもたちも手伝ってくれますね。

#### Q. 最後に子育て中のお母さんたちに一言

A. 毎日、子どもと1対1でずっと家にいるだけだと、気分的に減入ってしまいます。ぜひストレスを解消できるような場所を見つけて欲しいですね。楽しく子育てできるような環境がつくれたら人生がもっとすばらしくなると思います。

ありがとうございました。



#### オーナーの上原さんからPR

子育て中のお母さんが癒されるような、ほっとできるお店づくりを心がけています。ぜひ一度、お子さんと一緒に手作りランチを食べに来てください！

**Café プチママン**

宇都宮市今泉3-1-2-5 電話 028-643-7923 (※要予約)



福祉用具専門相談員

とみた なおこ  
富田 直子さん

### **転職を考えて～再就職するまで**

以前はレストランで働いていました。シフト勤務で時間や休日が不規則であり、子ども達の休日に合わせる事ができない状況であり、もっと子ども達とゆっくり過ごす時間を大事にしなければいけないと思ったのが転職のきっかけでした。

事務系の仕事が良いと思いましたが、パソコンが使えなかったのでハローワークの職業相談に行ったところ、職業訓練を紹介されOAビジネス初級科を受講することにしました。

3ヶ月の講習は、丁寧で親切な指導により中級レベルまで身につけられ、他にもビジネスマナーなど再就職に役立つ講義もあり、大変有意義でした。また、再就職という同じ目的を持った仲間と過ごすことはとても励みになりました。

就職活動は、折込広告・フリーペーパー・ハローワーク・インターネット等で情報収集をしました。希望する条件を厳しくするほど、応募できる求人は少なくなります。「自分にとって何が大切でどう働きたいのか」を考えた上で、事務だけにこだわらずいろいろな職種で探しましたが、なかなか再就職にはつながりませんでした。

そのような中、たまたま持っていた資格に目を止められ、「その資格で仕事をしませんか？」と声をかけていただいたことから、現在の「福祉用具専門相談員」という仕事に就くことができました。

資格があるとはいえ初めての仕事で戸惑うことも多く、時には上手くいかないこともあります。しかし、ご利用者さんのお役に立てた時、喜んでいただけた時はとてもやりがいを感じ、ご利用者さんの笑顔を見るたびに私も元気をもらえます。

現在の仕事は第一希望だった事務の仕事ではありませんでしたが、職業訓練で習得したパソコンの技術は役に立っています。また子ども達とゆっくり過ごす時間が持てるようになったことで、以前の仕事や生活に追われ流されていたときよりも、子ども達とのつながりが大きくなったように感じています。



## **誰もが大切にされる世の中へ・・・**

小学3年から高校生まで病気に悩まされながら育ってきた私は、人権という言葉に早くから敏感でした。人と同じように生活できない、学びたくても学べない、やりたいと思ったことにはいつも制限が付きまとう、時には自分は何の価値のない人間だ、いなくなったほうがいいと悩んだこともありました。学校生活の間は周りの人たちに気遣われ助けられるのが当たり前でした。高校卒業して会社に入り仕事を始めたとき、健康でない人は迷惑物、結婚相手には健康な人が一番だなど、社会の冷たい風にあたり、初めて、自分は世の中の弱者だという事を身にしみて感じました。

そうした経験からか“誰もが大切にされる世の中であってほしい”という願いがいつも心のどこかにありました。体調も良くなってきた頃から、今度は私が周りの人を助ける番だ、自分には何ができるか、そんな時出会ったのが新日本婦人の会でした。会の目的に一人一人を大切に考えることに共感し、子育てグループ、親子リズム小組に入りました。助け合って子育てをしていく中で悩んだ時は先輩お母さんが相談にのってくれます。私の子育ても一段落した今、若い子育て中のお母さんの力に少しでもなればと思い話を聞いたり、子ども達と遊んだりしています。

また、会の目的の一つでもある平和を守る運動では、毎年、夏に広島、長崎の原爆を体験した方の声を朗読劇したものに参加しています。生きたくても生きられなかった人たちの声を届ける事は平和の世の中をもらった私たちの使命でもあり、平和を守り続ける義務があるように思います。平和があるからこそ今の生活があることを忘れてはいけません。

これからも、誰もが大切にされる世の中になってほしいという願いを胸に、自分ができる事を探し活動していくつもりです。それは自分自身の成長のためでもあります。



NPO法人 仕事と子育て両立支援センター理事

## **歩み続けること。発信し続けること。**

子どもの頃の夢が何だったのか思い出せない。具体的な夢や目標が無かったからだ。なんとなく日々を過ごした。就職活動もせず、卒業前に結婚。生涯、就業することはないだろう。主婦が自分の役割。そう思っていた。

離婚を機に全てが変わった。30代半ばでの初めての就職活動。自分に何ができるのか、どうしたらよいか、まったく分からなかった。自信もなかった。

そんな時、友人がラーメン屋のバイトを紹介してくれた。時給は安く、仕事は思っていたよりハードだった。そこで働く人はそれぞれがそれぞれの事情を抱えながらも、懸命に働いていた。目から鱗が落ちた。

「働く」とはこういうことなのか。頭ではなく「働くことの現実」を初めて知った。これがターニングポイントとなった。何でもいい。できることから着実に始めよう。そう決めた。

その後バイト先の常連客から声をかけられ、その方の経営する食品会社の事務に就職した。正社員だったが、女性の給与は3人の子を養うには十分ではない。結婚式場の配膳などをし、休日や夜にも働いた。

このままでは行き詰る。前へ進みたい。資格を身につけようと決意。退職した。

失業保険を受給し、職業訓練でキャド(※注)を習得した。しかし年齢の壁は大きかった。すでに40歳を過ぎていたため、キャドでの求人は皆無。結局、昼間常勤で事務の仕事に就き、休日や夜にバイトをする生活に戻った。

資格も経験も時間も、手持ちの資金さえない。大方の母子家庭のお母さんは私と同じ。スキルアップを望んでも目の前の生活に追われ、小さな向上心など吹き飛ばされてしまう。

何かないか。前へ進んでいくための手だてとして、活用できる支援・施策をさがした。

いろいろな支援・施策があるにはあった。ただ本当に必要とする所へは届かない。また急激な社会の変化(現状)に追いつかないという現実気付く。

支援・施策、社会の仕組みや人の意識も急には変わらない。それでも私たち一人ひとりが、「住みやすい社会」の実現に向けて努力し発信し続けることが必要なのだ。私のテーマは女性と子ども。私自身が私のテーマに直接的にかかわっていくことが大切なのだと思う。

現在、母子連相談員をしている。小さな歩みでいい。同じ思いを持つお母さん方と少しずつ少しずつ前に進んでいくことが、現在の私の夢(目標)となった。

※注) キャド(CAD) コンピューターを利用して機会・電気製品などの設計を行うこ

## 平成20年度 チャレンジ事例集

平成21年3月

発行・編集 宇都宮市 市民生活部 男女共同参画推進センター

〒320-0845 栃木県宇都宮市明保野町7番1号

Tel: 028-636-4071 Fax: 028-636-4079

E・mail: [u18100201@city.utsunomiya.tochigi.jp](mailto:u18100201@city.utsunomiya.tochigi.jp)